旭山動物園ニュース

モユク・カムイ

2

1981.8

動物について考えよう——

動物学入門

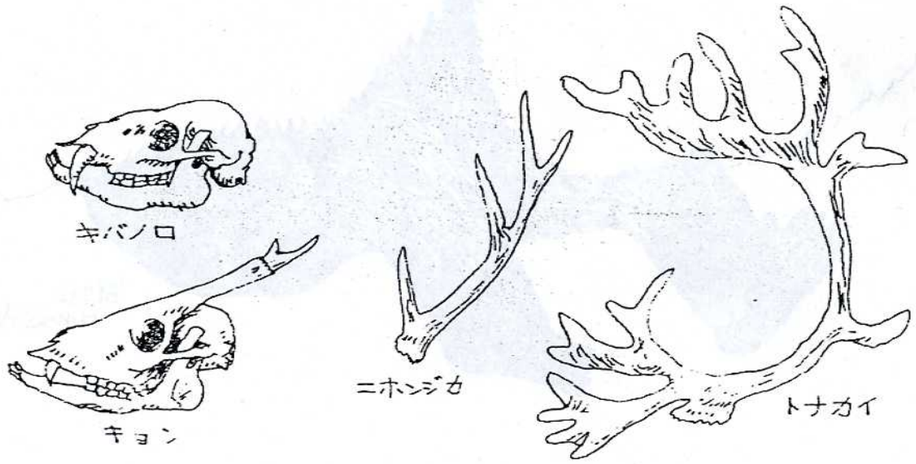
その２　　ツノのあれこれ

角は哺乳類の頭部にあつて，有力な攻撃，防御の道具となり，種類によつては，第２次性徴となるものです。構造上からは，４つの異なつた様式があります。それぞれ例をあげて調べてみましよう。

(1)　シカの角　（枝角）

この角は雄だけにあり，周年変わらず生えているのではなく，繁殖期を中心として，最も立派になります。その後，脱落し替りが生えて来ます。成長に伴つて大きくなり，枝の数が増えます。生え始めは，毛の生えたまの皮膚におおわれた柔らかいコブのようなもので，ふくろづのと呼ばれます。次第に堅くなるのは，中に骨質の角しんができるからで，角しんが成長するにつれ，根元が太くなり，皮膚はひからびて，はげ落ち，内部の角しんがむき出しになり，頭骨と連絡します。らつかくするのは，その頭骨との連絡が断たれるためです。

（※　例外…トナカイは雌雄とも有角，ジャコウジカ，キバノロは無角）



(2)　ウシの角　（洞角）

この角は，雌雄にあり，枝分かれせず毎年生え替わることもありません。これは頭角に連なる骨のしんがあり，その上を皮膚の角質化したものが，サヤのようにおおつているのです。

(3)　サイの角（中実角）

これは，内部に角しんがなく，表皮が非常に堅く角質化したものです。一本角のものと，二本角のものがいます。

(4)　キリンの角　（額小角）

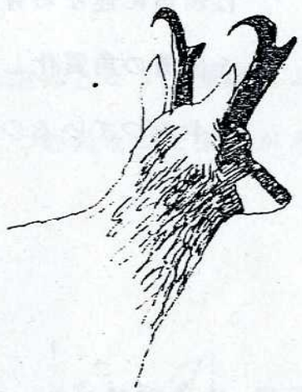
これは，皮膚におおわれた，骨質のコブで，３～７本あります。

ふつう１本が正面前方にあり，頭頂に１対，その後方に１対あり，亜種によつては，その後方にもう１対小さな角があるものが，います。

(5)　プロングホーンの角

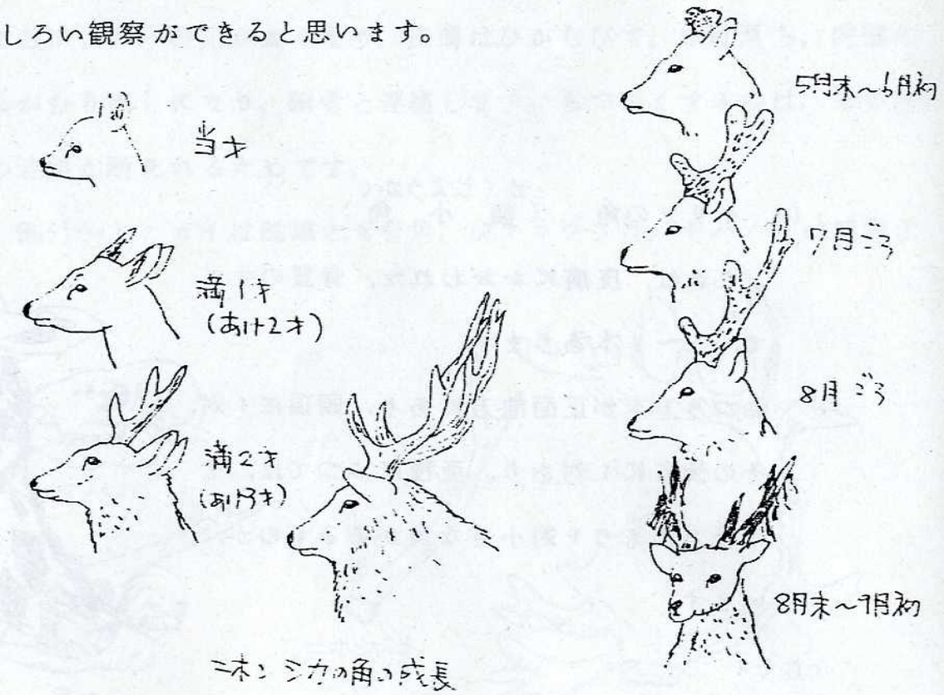
この角は，枝角（えだづの）と洞角（ほらづの）との中間的存在と言える，特殊なものです。

これは，骨しんの上に表皮が変化した角質のサヤがかぶさつたもので，雄ではさらに，このサヤが上部で枝分れしており，長さ５０cmに及ぶものもあります。角は脱落性ですが，骨しんはそのままで，サヤだけが，毎年抜け落ちます。



プロングホーン

以上，角には，４つの様式と５つの型があることが解つたと思います。実際の動物を見て，その角の特徴と，動物の生活とを重ねて考えてみても，きつとおもしろい観察ができると思います。



ニホンシカの角の成長

－ぼくらの友達・身近な仲間－

北海道の動物たち

その２　キタキツネ

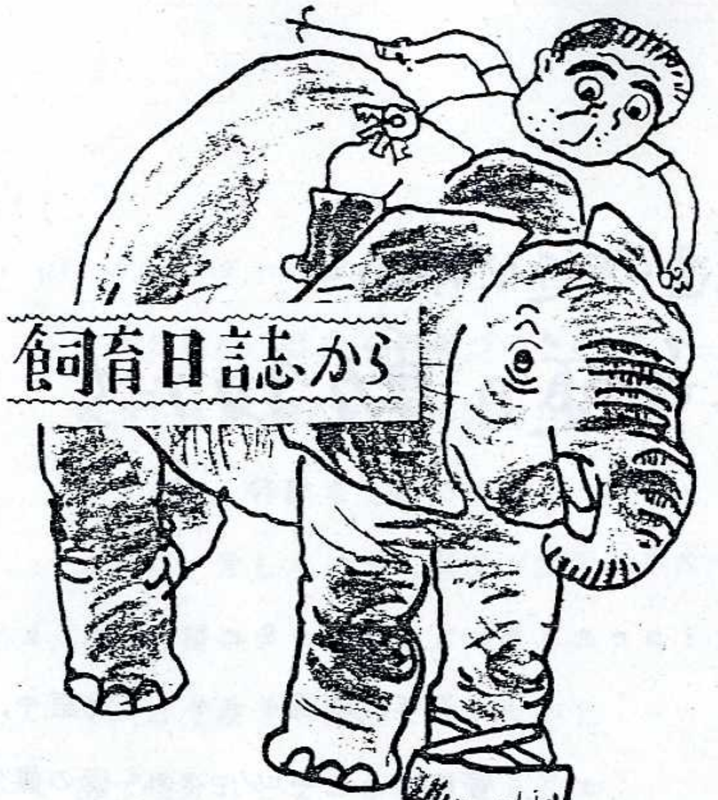
Vulpes Vulpes Schrencki

近年，映画キタキツネ物語や，新聞等による，エヒノコツクス症の媒介犯人などと，いろいろ世間を騒がせて，すつかり有名になりました。

彼等の恋の季節は，２月頃で４月頃には，およそキツネとは思われない様な，顔の丸い，黒つぽい毛の仔を４～５頭産みます。仔は眼も開いておらず未成熟のため，親の手厚い愛で大切に育てられます。成長するにつれて，狩りを覚え，一人で生活する知恵を親から教え込まれます。しかし，８月に入ると，親の態度が変わります。仔別れの季節です。この仔別れの儀式は，親子のきずななんて存在しないという程，激しく仔を咬み，追い払うのです。そして親と仔はそれぞれ完全に独立し，翌年の春，恋の季節を迎えるのです。

人間が彼等にとつて最大の敵である事に間違いありませんが，最近，野良犬が増え，新しいキタキツネの天敵となりつつあります。人間のペット管理のずさんさで野生動物を圧迫するという事は非常に残念な事だと思います。

旭山動物園ではキツネの繁殖研究を行つていますが，展示する施設がなく，皆さんにお見せできません。将来は展示してゆこうと思つていますので，御期待下さい。



飼育日誌から

ゲタをはかされた象

私はアフリカ生まれの２歳のメスで，名前はナナ。5月の始めごろから，どうも足が，ガクガクするなあ，と思つていたら，獣医と担当者が，私の足の裏を測つて，何やらゴソゴソ相談をしていた。２日程して，変なゲタを持つてやつて来て，やおらナイフを取り出した。アレーッ，私の足の裏をナイフで切つている。でも全々痛くなくて無事ゲタをはかせられた。何だか歩きづらいけど，足はガクガクしなくなつた。２～３日して，そのゲタは壊れてしまつた。でも，担当者はすぐに新しいゲタを持つて来た。なかなか気のつく奴だ。お陰で，前足は大分よくなつて来たが，今度は後足が，おかしくなつてしまつた。また，あの獣医が来て，足の裏を削つたがゲタをはかされなかつたので，ホツとした。それにしても，ゲタをはいて裏のスキー場を歩かされるのには参つた。でも，外を散歩できるだけ良しとするか。足の方もだんだん良くなつて来た事だし，この辺で感謝をしておこうかな。

Vet.メモ

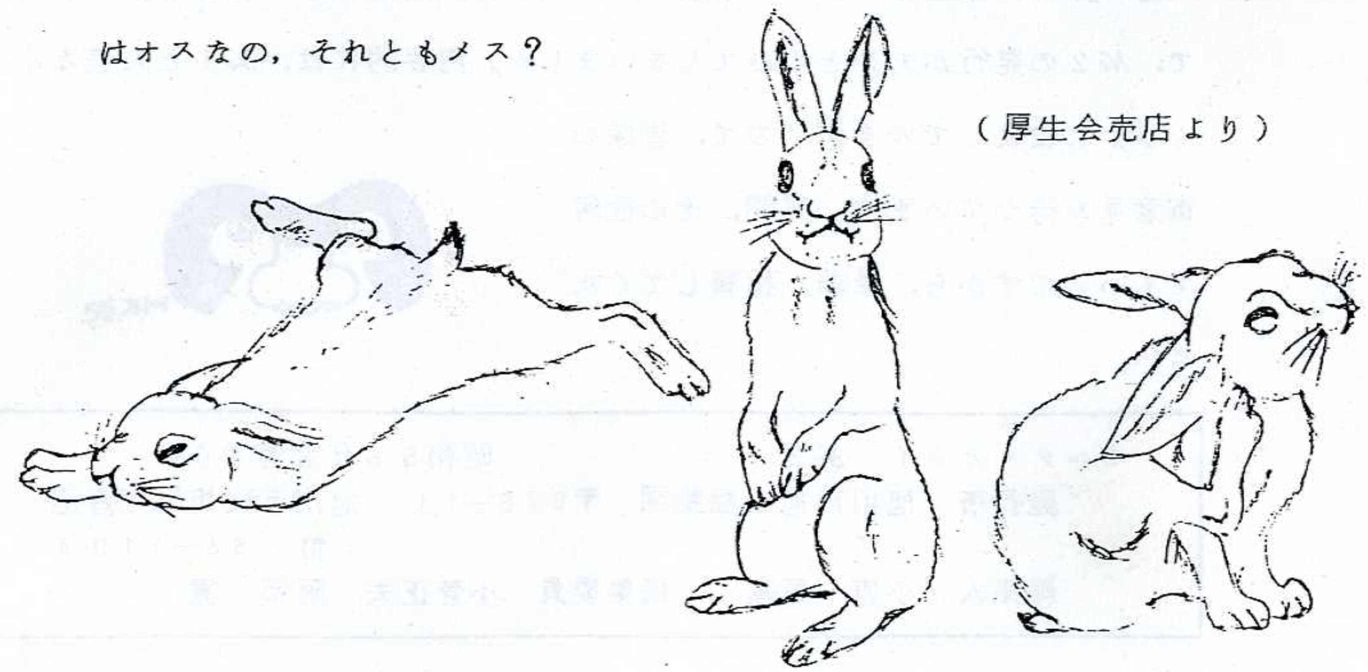
ヒステリーママ

テナガザルのクロベーは，騒ぎすぎる傾向があり，よく亭主を困らせていた。興奮すると手がつけられなくなる。子を産んだ時も，騒ぎすぎて，育児に専念せず，感極まつて子供の手を咬んでしまつた。それも我々が見ていると特にひどく，結局吹き矢で麻酔して取りあげた。ヒステリーはサルにも波及したらしい。

園内あちこち

今年４月２９日開園の日から，一匹のウサギが店の回りに来るようになりました。寒い日や雨の日はアイス・ストツカーのモーターの所にうずくまつています。見ていて可哀そうになり，色々な食べ物をやり，名前もミミちやんとつけました。食べ物を喜んで食べる姿を見て，とてもかわいらしくなり，毎日，ミミちやんと呼んでいるうち，ウサギの方も，自分はミミちやんだと解つたらしく，今ではすつかり慣れてしまいました。朝出勤する私達を待つて，シヤツターが開くと同時に店に入り，一番好物のドンを食べます。子供たちに追いかけられると，すぐ店の中に走り込んで来たり，私たちの帰る時間には，必ず姿を見せにやつて来ます。今では，ミミちやんの一番安心できる場所になつた様です。それに，私たちの話を解るようになつたみたいです。園内ではいろんなカツプルが居るのに，ミミちやんはいつも一人みたい。ところでミミちやん，あんたはオスなの，それともメス？

（厚生会売店より）



表紙のことば

マントヒヒ（Papio hamadrias）

こう毎日毎日暑くちやたまりませんねえ。自慢のこの銀色マントも，もうだれかにやつちやいたくなりますよ。えつ？マントがなけりやただのサルだつて？じようだんじやありません。このみけんのキズを見てくださいな。だてについているんじやありませんよ。なんなら一番やりますか？

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

編集後記

毎日毎日，青空ばかり，こう暑いと，動物も人間ものびてしまう。そんな訳で，№2の発行がチクとのびてしまいました。内容的には，№1と大差なく，もう少し改良してゆきたいので，皆様の御意見を待つています。質問，その他何でもいいですから，是非，投稿してください。

モユク・カムイ　№2　　昭和56年8月20日
発行所　旭川市旭山動物園　〒078－11　旭川市東旭川町倉沼
℡　36－1104
編集人　小原　源逢　　編集委員　小菅正夫　阿部　寛